



## 「多様性を認める心」と「対話する力」

校長 金子 敏治



「多様でありながら、ひとつ」という万博理念を象徴する大屋根リング

夏休みが明け、心も体も一段とたくましく成長した生徒の姿を見て、とても頼もしく思います。2学期は行事が多く、学びも深まる学期です。生徒一人一人が様々な場面で力を発揮してくれることを楽しみにしています。

さて、本年2025年は、第二次世界大戦が終わってから80年という節目の年です。世界各地で今もなお紛争や対立が続く今、「平和とは何か」について改めて考えることが大切だと感じています。1945年3月10日、「東京大空襲」があり、一晩で10万人以上の命が失われ、多くの住宅や建物が焼き尽くされました。犠牲となった多くの方々は、私たちと同じ日々を暮らす市民でした。このような悲しい過去を繰り返さないためには、他者を理解し、尊重することが求められます。争いの原因の一つには、「違いを受け入れられないこと」や「話し合いをせずに力で解決しようとすること」があります。現代社会でも、宗教や文化などの違いをめぐる対立が続いている。日々の学校生活の中でも、小さなすれ違いや誤解からトラブルのきっかけとなることがあります。だからこそ、私たちに必要なのは、「多様性を認める心」と「対話する力」です。人はそれぞれ異なる考え方や価値観をもっています。意見が合わないことがあって当然です。それゆえ、自分の考えを押しつけたり、相手を無視したりするのではなく、「なぜそう思うのか」、「どうすれば分かり合えるか」を言葉で丁寧に伝え合うことが大切です。学校は、多様な背景や個性をもった子どもたちが集まる場です。得意なことや苦手なこと、育ってきた環境も一人一人異なります。誰もが安心して自分らしく過ごせる学校こそが、真の意味で平和な場所であると言えます。

福生一中では、今年度の教育目標の重点として「共生」を掲げています。2学期はこの目標をさらに意識し、日々の授業をはじめ、部活動や合唱コンクールなど様々な場面で子どもたちが主体的に関わり、お互いを認め合う経験を積んでいく教育活動を進めていきます。

過去の出来事を通して今を見つめ、そして、未来をよりよくしていくこと。その第一歩は、子どもたち一人一人の心の中から始まります。この2学期が、生徒一人一人にとって学びと成長に満ちた時間になるように、教職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。